

堀川の仏たち

匠瑛探訪

197

堀川(栄地区)は市の南西部に位置し、堀川東区と堀川西区があります。西区の真言宗吉祥院の仏たちを拝見する機会がありました。

稲荷山吉祥院は川辺葉師寺の末寺で、西区に稲荷神社がまつられており、それを山号にしたのでしよう。

平成12年4月旧建物が解体された際、木札が発見されました。それには世話人石井治右エ門、西

小屋五良右エ門生まれの僧侶名、南清兵衛、下新五右衛門などの名とともに1807(文化4)年に建てられたことが書かれています。

平成13年3月に完成した現在の建物内中央の祭壇に、弘法大師像などを含む8体の仏像がまつられています。前列中央に大日如来坐像、向かって右側に弘法大師像、左側に興教大師覺鑿像が並び、新義真言宗寺院に多く見

吉祥院の仏たち

られる配置です。同寺に文書などの記録が伝わっていないことから正確な製作年代は分かりませんが、旧建物ができた1807年ごろとみて差し支えないでしょう。

後段には中央に阿弥陀如来坐像、右側に不動三尊像、左側に

如意輪観音坐像の5体が並んでいます。これらはいつの時代かに別のお堂から移されたものでしょう。中でも如意輪観音像は光背などに欠落部分もありますが、製作年代が最も古く美しい仏といえます。

今回の調査ではこれら仏像の他に、数点の仏画や地域ごとの子安講で使用われてきた掛け軸も見る事ができました。別の機会に紹介することになります。

江戸時代の堀川村は、1628(寛永5)年ころは堀川小屋村と呼ばれ、300年前ころから幕末にかけて新田開発により村高(生産高)が大幅に増え、1845(弘化2)年の家数は157軒でした。

寺関係者の話では、歴代の区や寺関係者の仏たちへの関心が高く大切に保存されたことが、今回目にしてうなずきました。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

関秘書課広報広聴班

☎73・0080

